

議 事 要 旨 記 録 票

日 時	令和4年4月25日（月）18時30分～20時10分
場 所	505 会議室
会議件名	第2次日野市スポーツ推進計画策定委員会（第1回）
参加者	策定委員：10名 事務局（文化スポーツ課）：4名 欠席者なし
配布資料	資料1 日野市スポーツ推進計画（概要版） ※H27 策定の第一次計画 資料2 第3期スポーツ基本計画概要【国】 資料3 アンケート調査報告書（成人向け：令和2年3月実施） 資料4 アンケート調査報告書（小中学生向け：令和2年7月実施） 資料5 計画策定スケジュール 資料6 第2次日野市スポーツ推進計画策定委員会設置要綱 資料7 第2次日野市スポーツ推進計画策定委員会 委員名簿
結 果	<input type="radio"/> 了承（意見なし） <input checked="" type="radio"/> 了承（意見あり） <input type="radio"/> 要修正・再説明 <input type="radio"/> 不承諾 <input type="radio"/> 情報共有のみ
主な内容	1. 開会あいさつ 産業スポーツ部長挨拶 2. 委員・事務局紹介（資料7） 各委員・事務局による自己紹介を行う 3. 委員長・副委員長の選任 立候補者不在のため、事務局より委員1名を委員長として推薦 ⇒推薦された委員承認 委員長より委員1名を副委員長に指名⇒指名された委員承認 ⇒これから先、委員長により議事の進行を行う。 4. 会議の役割と今後のスケジュールについて（資料5、資料6） ・事務局より会議の役割・今後のスケジュールについて説明 ・本委員会は、第2次日野市スポーツ推進計画を策定するにあたり、多様化する市民のニーズに対応し、市民がスポーツに親しみやすい、環境を実現するため、要綱により設置

- ・所掌事項として、1つ目に、計画の素案の作成に関すること。2つ目に、その他、計画策定に必要な事項に関すること。を検討し、その内容を市長に報告する役割
- ・任期は、令和5年3月31日まで
- ・本日の委員会を含めまして、令和4年度に5回、概ね2か月に1度の開催
- ・第1回目は、既存の日野市の計画やこれまでに実施したアンケート調査の結果など、主に日野市の現状についてご説明
- ・第2回目では、本日のご意見を踏まえ、理念・方針についての検討
- ・第3回目では計画の骨子と具体的施策の検討
- ・第4回目では第3回目までの検討を踏まえ、さらなる計画の骨子と具体的施策の検討、及びパブコメ前の最終確認
- ・第5回目としてパブコメの意見の反映
- ・今後、スケジュールに変更が生じる場合がある。
- ⇒委員からの質問等なし

5. 第1次日野市スポーツ推進計画の概要について(資料1)

- ・平成26年8月に実施した「日野市スポーツ推進計画に関するアンケート調査」の結果や当時の委員会でのご意見を踏まえ、平成27年5月に策定
- ・平成27年4月から令和2年3月までの5年間を期間
- ・日野市のスポーツ推進における課題を、「する」スポーツ、「観る」スポーツ、「支える」スポーツとして分け、それぞれにおける課題を抽出
- ・その課題を解決するための基本施策がその右、「基本施策1. スポーツをする「場」の整備と充実」から一番下の「基本施策4. 計画の推進」という4つの基本施策を示している。
- ・施策には(1)から(9)までの9つの具体的な施策を定め、各推進事業を掲げ、課題の解決、目標の実現に向け、事業を展開する体系となっている。
- ・スポーツ推進計画では、推進事業を実施していく上で「計画の目標」を4つ示しているが、新型コロナウイルス感染症の拡大により、令和2年3月以降の施設の閉所などが影響し、まだまだ達成できていないのが現状
- ・第1次日野市スポーツ推進計画は、平成27年4月から令和2年3月までの5年間を期間とし、令和2年度に次期計画策定を行う予定であったが、新型コロナウイルスの影響や東京2020オリンピック・パラリンピック大会の開催が1年延期となったことを踏まえ、第1次の計画期間を延長。また、上位計画である「スポーツ基本計画」が令和4年4月からスタートすることを考慮し、日野市でも今年度の令和4年度に第2期スポーツ推進計画の策定を目指すこととなった。
- ・なお、これまでの間、第2次計画を策定するための準備として、アンケート調査を実施し、課題を抽出、また、他市の計画から各市が重要視するキーワードの確認、さらには第1次計画における各課の取組状況を検証した。

6. 上位計画(第3期スポーツ基本計画)について(資料2)

- ・事務局より「第1次日野市スポーツ推進計画」の概要について説明
- ・令和4年3月25日付けで、文部科学省が第3期スポーツ基本計画を策定
- ・このスポーツ基本計画は、スポーツ基本法第9条の規定に基づき、文部科学大臣がスポーツに関する施策の総合的かつ計画的に推進を図るために定めるものであり、スポーツ基本法の理念を具体化し、スポーツ立国の実現を目指す上での重要な指針となるもの。
- ・国の計画は、令和4年度から令和8年度までの5年間
- ・新型コロナウイルス感染症の影響や東京オリンピック・パラリンピック競技大会の開催等を踏まえつつ、新たな計画の方向性として、①東京大会のスポーツ・レガシーの継承・発展、②スポーツの価値を更に高めるための新たな3つの視点ということで、スポーツを「つくる／はぐくむ」、スポーツで「あつまり、ともに、つながる」、スポーツに「誰もがアクセスできる」という基本的な政策の方向性から具体的な施策等を整理している。
- ・地方公共団体においては、スポーツ基本法第10条の規定に基づき、地方のスポーツ推進計画の改定・策定に向けては、スポーツ基本計画を参酌(参考)とする。
- ・ただし、この国の第3期計画の記載事項を形式的に全て踏まえる必要はなく、各地域が有するスポーツ資源等を十分に踏まえた上で、各地域における課題解決等に「スポーツの力」がどのように寄与できるのかを検討した上で、各地域の実情に応じた地方スポーツ推進計画となることが望ましいとされている。
- ・その際には、各地域の実情等を踏まえつつ、性別、年齢、障害の有無等の多様な背景・立場等を有する方々の声を広く取り入れるため、計画を検討するための会議の委員構成を配慮したり、ヒアリングの機会を設けたりするなどの工夫を行うことが望まれるとされている。

【委員】

- ・第3期スポーツ基本計画(概要)の「暴力根絶に向けた相談窓口の一層の周知・活用」の部分のような周知・活用だけでなく、「暴力根絶に向けた研修や講習などを開催していく」という具体的な内容も盛り込めるよう、今後議論していきたい。

【事務局】

- ・スポーツを実施する方の安全と安心の観点からも重要な視点ですので、今後、議論していきたい。

7. アンケート調査について(資料3、資料4)

- ・事務局より「日野市スポーツ推進計画に関するアンケート調査(成人向け)調査結果報告書」を説明
- ・令和2年3月 12 日～3月 27 日に、日野市在住の 20 歳以上の方、2,000 人を無作為抽出し実施した調査。有効回答数 998 通、有効回答率 49.9%
- ・問2「あなたは、スポーツや運動がもたらす効果とはどのようなものだと思いますか。」との問いに、健康の維持増進 87.0%、体力の維持向上 80.2%との回答を得ている。このことから、一般的には、スポーツや運動をしたら「健康の維持増進」「体力の維持向上」になると考えられており、このような効果を得られるような機会の創出、つまりは手軽に取り組めるスポーツ機会づくりが必要
- ・また、スポーツや運動に嫌悪感を感じている人に対し、プラスの情報提供をしていくことも重要である。
- ・問6「スポーツや運動を主にどのような場所で行っていますか」との問いに、道路・遊歩道 49.1%、自宅 28.2%との回答を得ています。コロナ禍の影響により、前回の平成 26 年度調査と比較して、この2つの回答は増加していることが特徴として挙げられる。ステイホームという言葉が多く使われる中、身近でスポーツを楽しむ人が急増したと考えられる。このことからウィズコロナ・アフターコロナの考え方が今後、重要になってくる。
- ・問 12「今後どのようなスポーツイベントや大会に参加したいと思いますか」との問いに、「参加したいと思わない」が 47.4%との回答がありました。20 代以上は仕事・育児・介護で忙しく、会場へ行って参加するという余裕がないのでは。また、コロナで人の集まる場所に行きたくない人もいるかもしれない。今はスポーツイベントもオンラインで手軽に参加できる時代なので、自宅でも参加できるイベント等に方向をシフトしていき、新しい生活様式に合わせた企画を練っていくことも必要である。
- ・問 16「この 1 年間にスポーツを支える活動に関わりましたか」との問いに、「関わらなかった」が 77.6%と非常に高い回答。スポーツを支える活動にはかかわらなかった人が多く、ただ関心がないのか、コロナでできなかったのか。イベント等を実施する場合、支える人も重要となる。どうしたら関心をもってもらえるか。今後のスポーツへの関心度向上への取組みが必要と考える。
- ・問 18「知っている・聞いたことがある障害者スポーツの競技はありますか」との問いに対し、車いすバスケットボール 76.7%、車いすテニス 66.6%、ボッチャ 51.2%との回答でした。成人向けの調査は、パラリンピック開催前でしたが、その後、パラリンピックでは、パラバドミントンで市内在住の山崎悠麻さんが金メダルと取るなど、障害者スポーツの競技に興味、関心は高くなっているものと考え。障害者の目線に立ったボッチャの体験会などを企画し、障害者スポーツを知る機会を作り出すことも重要と考える。この機会を失することなく、障がい者スポーツの普及に努める必要である。

- ・問 24「スポーツや運動に関する情報をどこで入手していますか」との問いに、広報ひの 40.3%、新聞・雑誌・テレビ・ラジオ 31.1%、インターネット、SNS が 25.2%との回答。SNS 時代でも広報からの情報収集が最も多い。意外と紙面を見ているといった印象である。広報やホームページは従来どおり発信しつつ、SNS の開拓も必要なのではと考える。コロナで運動不足な人たちも増えつつあるので、市の youtube 等を活用して家庭でできる運動や遊びを配信するなど新しい形のスポーツ配信も視野に入れていくことも必要である。
- ・このコロナ禍においては、特に高齢者の体力低下も課題と考えられる。そのような視点も、引き続き計画の中に反映する必要がある。
- ・事務局より、「日野市スポーツや運動に関するアンケート調査(小学生向け)調査結果報告書」を説明
- ・令和2年7月8日～7月21日に、日野市の小学5年生、及び中学2年生の児童・生徒とその保護者の方に実施した調査。有効回答数 524 通、有効回答率 92.7%
- ・問4「あなたが、体育の授業以外でしているスポーツや運動はなんですか。」との問いに、ジョギング・ランニング、続いてウォーキング・散歩が高い回答。コロナの影響により、家の周辺などでできるこれらの運動をする人が増えたのも影響しているものと考えられる。手軽に始められ、道具も必要としないスポーツなので、これにちなんだイベントを実施することで、多くの人にとって、手軽に取り組めるスポーツの機会をつくることも可能と考えられる。
- ・問6「あなたは、スポーツや運動を主にどのような場所でしていますか」との問いに、学校の体育館 44.2%、続いて公園・広場 41.3%、続いて自宅 31.9%との回答。小中学生は、公共の施設を使用している傾向が高く、今後も小中学生問わず、安心して公共施設を利用できるように環境の整備を整備していく必要がある。また、特に小学生は活動範囲がある程度の狭い範囲に限られる。したがって、新しいものを作るというより、既存のものを生かし、普段の活動拠点で運動を安心して楽しむことのできる環境が大切である。また、自宅を活動場所としているのは、コロナの影響で自宅のオンライン環境を整える家庭が増加したことも要因。自宅のできる運動などを企画し、発信していくことも必要なのではと。ここでも、ウィズコロナ・アフターコロナを踏まえた、スポーツ環境を整えていくことが課題となる。
- ・問9「あなたは、スポーツや運動をしていない理由はなんですか。」との問いに、「スポーツや運動が好きではないから」が圧倒的に多く 70.3%との回答。好きでない理由も様々だと思うが、スポーツや運動を好きになってもらう取り組みが必要である。小中学生の場合、昔と比較し、子供の体力低下が懸念される。運動習慣がないと、将来、生活習慣病へのリスクも高まる。難しいですが、将来のリスクも考えて、嫌いな人に好きになってもらえるようなアプローチが必要である。
- ・問 10「あなたが、新しく始めたい・これからも続けていきたいと思うスポーツや運動

は何ですか。」との問いに、成人向けアンケートと同様に、ジョギング・ランニング、ウォーキング・散歩について高い回答を得た。歩く・走る系が上位。コロナ目線から考えると人との接触を伴わず、自分のペースでできるというメリットもある。手軽に取り組めるスポーツ機会づくりという視点で、イベント等を企画し、小中学生の健康維持について積極的にアプローチしていくことが考えられる。

・問 11「あなたは、将来スポーツ選手になりたいと思いますか」との問いに対し、「とくになりたいとは思っていない」が68.5%と、「になりたい」の13.7%を大きく上回っています。「トップアスリートの育成」を視野に入れていくなら、ここへのアプローチが必要。日野市出身のスポーツ選手の講演会やスポーツ教室などを可能な範囲で開催し、子どもたちへ刺激を与えられるような機会を作り出す必要がある。

・問 18「保護者から見て子供にとって、スポーツや運動がもたらす効果とは」との問いに対し、体力の維持向上、健康の維持増進が高い割合であった。保護者から見ても、スポーツがもたらす体力の維持向上・健康の維持増進への期待は高いものと考えられる。この保護者の期待に対して、小中学生にどのようにスポーツや運動を好きになってもらい、自主的に運動をやって、体力の維持向上につなげていくかが重要である。

【委員】

・種目の「ビーチボールバレー」を「ビーチボール」へ訂正を依頼

【委員】

・北川原公園でバスケットをやっているが、砂地のため、雨が降ると使えない。年末年始の休み期間に鍵を閉められてしまうため、子どもが中に入ることができない。利用しやすい運用を検討してほしい。

【事務局】

・今後、子どもたちが利用しやすい環境を整備していくことなど、計画に盛り込んでいければと考える。

【委員】

・新型コロナウイルスの中で規制が厳しくなっていると説明があったが、現時点での状況を説明してほしい。

【事務局】

・ロッカーの人数制限・名簿の提出・手指消毒の徹底など、感染症対策を講じた上で施設の運用を行っている。規制は緩和されつつあるため、規制がなくなっていくものだという認識で、今後に向けた意見を頂きたい。

【委員】

- ・極真空手を行っており、南平体育館を利用した。新しい施設で気持ちよく利用した。畳の部屋があった方がよかった。普段は道場で活動しているが、試合などで南平体育館を活用したい。

【委員】

- ・体育協会としての課題は、①施設の充実②加盟者の減少③障害者対応である
- ・施設の充実として、陸上競技場の全天候型、夜間照明、プールの設備充実に重きを置きたい。
- ・体育協会の加盟人数が増えないという問題点がある。10年前くらいから1万8千人に伸ばしていきたいと目標立てていたが、現状1万1千人程度になってしまっている。東京都体育協会も苦悩している。加盟団体や競技人口を増やしていくために、競技スポーツだけでなく、レクリエーションスポーツも視野に入れていく必要がある
- ・障害者スポーツへの対応も今後課題となってくる。水泳・陸上・サッカーの大会に障害のある方も参加したいという声も上がってきている。

【委員】

- ・令和5年度からの休日部活動の地域移行に、令和3年度から取り組んでいる。
- ・部活動の「大会至上主義」、競技経験のない教員の指導などの課題がある中で、これから先、スポーツを持続的なものとしていくため、どのように地域に戻していくのか検討している。
- ・子どもは「身体を動かすのが好き」という部分を中心として観ていかないと、スポーツが持続できないと思う

【委員】

- ・ミニテニスを行っているが、南平体育館の使用料がシニア200円となってしまった。市外からのサークル活動者は2倍支払わないといけなくなってしまう。
- ・コートとコートの間隔が狭すぎて、ラケットが当たってしまうため、もう少し間隔を取ってほしい。ケガのないように活動をしていくしかない。

【委員】

- ・健康福祉部としては、福祉と健康づくりという観点から委員としての参加であると理解している
- ・令和3年度から高齢者の運動事業を整理・統合した。なお、コロナの影響で効果は、まだはっきり検証できていない。

- ・障害者スポーツについては、「関心がない」と答えた理由が、「身近で障害者スポーツを実施していない」ということがある。身近に障害者がいないため、そもそも分からないなど、こういった問題は障害福祉全体の課題でもある。障害者スポーツを皮切りに市の障害福祉事業を広く進めていきたい。

【委員】

- ・スポーツ推進委員は家から1歩でも外にでてきてほしいという目的で事業を進めてきた。どのようにしたら外出してもらえるか。歩かない人を外に出すということはなかなか難しいが、ここ 2～3 年間で事業のマンネリ化しているため、市内だけでなく、市外に出ていくなどの「ウォーキング事業」も進めていきたい。
- ・障害者施設に出向き、ボッチャやハンドロウルを普及するため活動しているが、障害のある方が参加できるイベントの周知をしっかりとしていきたい。
- ・いろいろな方からの意見を聞き、具体的にどのように人を集められるかを考えていきたい。

【委員】

- ・e-sports について、どのような扱いをしていくのか、今後議論していきたい。

【委員】

- ・平山台文化スポーツクラブでは、高齢者が8割を占め、そのうち女性が7割
- ・コロナの影響もあり2020年度から1万3千人、2021年度は1万5千人の方が平山台文化スポーツクラブに来ている。
- ・仲間づくり・スポーツを楽しむという目線から参加しており、東京都からもスポーツマネージャーを育成してほしいと依頼が来ているが、スポーツマネージャーの育成をどうしていくかを検討していきたい。
- ・東京都からも障害者スポーツを広めてほしいと依頼がきているが、旧平山台小学校は段差があったり、トイレなどで、障害者の方に対応できていない
- ・東京都の支援金でボッチャを購入し、ボッチャ体験会などを行っていきたい。
- ・総合型地域スポーツクラブの会員の獲得は、HP・広報が有力であるが、交通の便が悪い。ミニバスも30分に1本程度走ればもっと利用者が増えると思う。

【委員長】

- ・コロナの影響により、第1次計画の積み重ねがうまくいかないが、本日、皆様から多くの具体的な課題を提供していただいたので、今後議論を重ねていきたい。
- ・日野市は、外にできれば川や山などがあり、自然にも恵まれている。工夫次第で面白い事業も可能と考える。
- ・子どもの体力についての身体活動量が減っているという調査もしていたが、休校期間中に動いた子ども・動かなかった子どもで差が開いてしまった。全体的にみるとやはり下がってしまっている。

【委員】

- ・小学生の体力2極化が顕著になっているという話題があったが、小学生に対する「走る」「投げる」「跳ぶ」という基礎的な事業を復活させてもよいのではと考える。

【委員】

- ・遊びからスポーツにふれてもらうという方法がよいと思う。

8. その他

- ・第2回策定委員会のスケジュールについて連絡
- ・令和4年6月27日(月)市役所5階 504 会議室 18:30~20:30